

枚方淀川探鳥会 2025年12月

2025年(令和7年)12月7日(日) 9:00~12:00

日本野鳥の会大阪支部

前田初雄、甲田正二、西脇淳浩、香月清宏

松井正夫、新名泰博、平 軍二 (☎090-6901-1425)

今日12/7は「淀川河川公園枚方地区」を中心に、「淀川寛平マラソン」が開催されています。ここ数年探鳥会開催日とバッティングしていなかったのが、寛平マラソン開催日にノーマークでした。
今日は、探鳥会時に確認しながら、**若干のコース変更も止むなし**と思われます。

I 今月の鳥はスズガモ

①スズガモ カモ目カモ科スズガモ属

L 45cm 漢字名 鈴鴨

学名 *Aythya haffinis* 英名 Lesser Scaup

11月探鳥会でスズガモが出ました。

枚方淀川探鳥会のチェックリストでは、昨年10月に5羽観察されているが、最近13年間7回のみであり、2年に1回程度しか観察していない稀な冬鳥である。

なお、スズガモの雌は写真のように**嘴基部の白色部**で確認するが、同属のキンクロハジロにも嘴基部に白斑が出る個体があるので、注意である。



スズガモ雌 20251102(平)

②大阪府のスズガモ →

(大阪府鳥類目録 2016)

大阪府では大阪湾岸でよく観察される。鳥類目録によると、ガンカモ調査時の結果と思われる、下記の記録が記載されている。

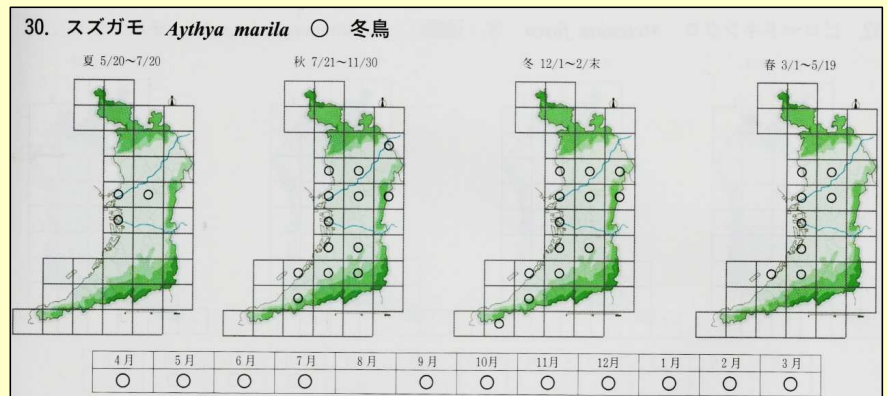
2006年1月 夢洲 2,362羽

2007年1月 泉大津市 1,032羽

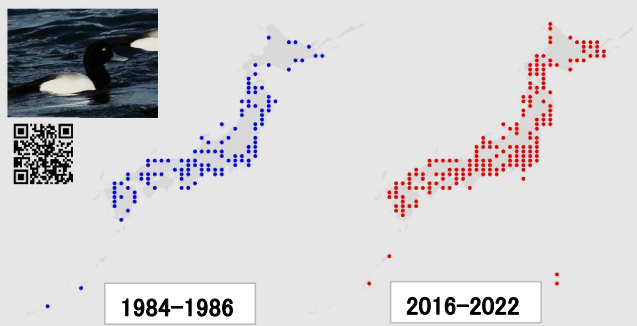
2009年1月 神崎川河口 2,736羽

2016年1月 岸和田市 1,500+羽

海の鳥であるため、枚方淀川など内陸部では観察されても、個体数は少ない。



スズガモ *Aythya marila* 全長: ♂43.5~46.5cm ♀40.0~45.5cm 体重: ♂744~1372g ♀690~1312g



← ③スズガモ 日本での越冬状況

全国越冬分布調査報告2016~2022年

(バードリサーチ・日本野鳥の会 2023年)

冬鳥として全国に渡来し、内湾では大きな群れで越冬する。1980年代と比較して2010年代は、北海道や関東地方では内陸部、西日本では主に沿岸部で分布が拡大していた。

環境省の「ガンカモ類の生息調査」での越冬個体数は、1970年代後半以降、10~27万羽で変動している。

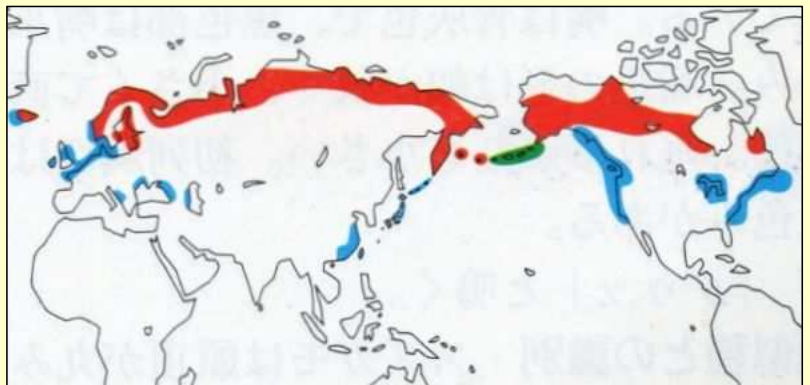
④世界のスズガモ分布図

真木・大西(日本の野鳥590) 2000年平凡社

日本に冬鳥として来ているスズガモの繁殖地が**北極圏にある**ことを初めて意識した。

スズガモの繁殖図を見て、他の鳥の分布図を見直した所、マガン・コハクチョウなどの繁殖地も北極圏でした。

スズガモの越冬地は千島列島~日本列島、そして台湾及び中国南部などの沿岸部でした。



Ⅱ 探鳥会観察チェックリスト(第8版)

観察回数は、平が担当した2012年1月～先月2024年12月までの13年間の観察回数です。
100回以上は留鳥、50回前後は冬鳥or夏鳥、10回以下は珍鳥？

第8版	科名	鳥名	観察回数	2024				2025				第8版
				9	10	11	12	9	10	11	12	
				1	6	3	1	7	5	2	7	
12	カモ	マガン	1									12
18		ツクシガモ	3					雨				18
23		トモエガモ	2				3	天	○			23
24		シマアジ	1					中				24
26		ハシビロガモ	9					止				26
27		オカヨシガモ	52				25					27
28		ヨシガモ	21				6					28
29		ヒドリガモ	48			3	14					29
30		アメリカヒドリ	6									30
32		カルガモ	97	○	1	39			○			32
33		マガモ	58			15			○			33
34		オナガガモ	8									34
35		コガモ	62			4	1					35
39		ホシハジロ	46			3	49					39
40		アカハジロ	6				1					40
41		メジロガモ	1				1					41
43		キンクロハジロ	47				100			○		43
44		スズガモ	7				5		○			44
56		ミコアイサ	2				1					56
58		カワアイサ	50			3	6					58
59		ウミアイサ	3									59
64	キジ	キジ	54	1			1	1	○			64
69	アマツバ	アマツバメ	2									69
80	カクコウ	ホトトギス	2									80
82		ツツドリ	2									82
83		カクコウ	1									83
89	ハト	キジバト	123	○	4	2	1	4	○			89
96	クイナ	クイナ	12									96
100		バン	23									100
101		オオバン	55			4	82		○			101
103		ヒクイナ	7									103
117	カイツブリ	カイツブリ	51			5	5		○			117
119		カンムリカイツブリ	64			3	23		○			119
121		ハジロカイツブリ	4									121
127	チドリ	タゲリ	1									127
128		ケリ	27									128
134		イカルチドリ	9									134
135		コチドリ	32									135
136		シロチドリ	4									136
144	シギ	チュウシャクシギ	2									144
163		トウネン	1					雨				163
165		ハマシギ	1					天				165
183		タシギ	5					中				183
188		イソシギ	89	○	3	1	2	2	止	○		188
190		クサシギ	3									190
192		キアシシギ	2									192
198		アオアシシギ	1									198
213	カモメ	ユリカモメ	22									213
221		ウミネコ	3									221
222		カモメ	3									222
226		セグロカモメ	20									226
233		コアシサシ	9									233
270	アビ	シロエリオオハム	1									270
315	ウ	カワウ	122	○	47	12	7	57	○			315
319	トキ	ヘラサギ	1									319
320		クロツラヘラサギ	1									320
328	サギ	ゴイサギ	10									328
330		ササゴイ	18									330
332		アマサギ	3									332
333		アオサギ	124	○	4	8	1	4	○			333
335		ダイサギ	120	○	5	5	3	3	○			335
337		コサギ	111	○	6	5	3	8	○			337
343	ミサゴ	ミサゴ	75		1	1	4		○			343
344	タカ	ハチクマ	2									344
353		ハイタカ	36				2					353
354		オオタカ	27									354
355		チュウヒ	2									355
356		ハイロチュウヒ	1									356
359		トビ	102	○	3	2	4	1	○			359
363		サシバ	1									363
366		ノスリ	37			1						366
371	フクロウ	オオコノハズク	1									371
384	カワセミ	カワセミ	106	○	1	3	1	2	○			384
389	キツツキ	アリスイ	10				1					389
390		コゲラ	102		2	1	2	1				390
394		アカゲラ	6									394
402	ハヤブサ	チョウゲンボウ	57				1		○			402
407		ハヤブサ	31						○			407

Ⅲ 先月(11/2)探鳥会報告

スタート地点で関西医科大学の屋上に止まっていたチョウゲンボウ、淀川堤防側へ回ると関医タワーの文字盤に止まっていたハヤブサと、幸先

よくスタートした。河川敷の草原ではハクセキレイの群、中に冬鳥のタヒバリもいた。ホオジロ・モズ・カワラヒワは木の上に、ヨシなどの草むらからはウグイスの「ホケキョ」、そしてアオジの声もした。

淀川本流ではアオサギ・ダイサギ・コサギ・オオバン・カワセミ、そして上空をミサゴが飛んだ。冬鳥はカンムリカイツブリ、更にキンクロハジロとともにいたスズガモを見ることができた。天野川・黒田川の川床にはセグロセキレイが多数おり、今月の鳥として資料に入れたイソシギもゆっくり見ることができた。冬の小鳥は天野川沿いのシナサワグルミの木にジョウビタキ、オオタカの森のムクノキの木にツグミを確認した。今月の「トリ」はキジ、声を出して飛ぶ姿を見た後、磯島グランド南側の堤防のナンキンハゼに止まっている姿を全員でゆっくり観察できたことから、気持ち良く終えることができた。

第8版	科名	鳥名	観察回数	2024				2025				第8版
				9	10	11	12	9	10	11	12	
411	サンショウクイ	サンショウクイ	1									411
419	カササギヒタキ	サンコウチョウ	1					雨				419
425	モズ	モズ	114	○	13	20	6	1	天	○		425
435	カラス	ハシボソガラス	125	○	19	8	35	6	中	○		435
436		ハシブトガラス	118	○	3	3		3	止	○		436
440	シジュウカラ	ヒガラ	1									440
442		ヤマガラ	7									442
447		シジュウカラ	116	○	25	2		3		○		447
448	ツリスガラ	ツリスガラ	1									448
450	ヒバリ	ヒバリ	68	○	1		1					450
456	ヒヨドリ	ヒヨドリ	120	○	400	234	333	2		○		456
458	ツバメ	ショウドウツバメ	6									458
461		ツバメ	64	○	2			5				461
462		イワツバメ	54	○			30			○		462
463		コシアカツバメ	23	○	8			2		○		463
464	ウグイス	ウグイス	119		2	6	5			○		464
467	エナガ	エナガ	93		12	10						467
476	ムシクイ	センダイムシクイ	7									476
479		エゾクシクイ	1									479
481		メボソムシクイ	5									481
482		オオムシクイ	5									482
484	ヨシキリ	オオヨシキリ	33									484
485		コヨシキリ										485
497	セッカ	セッカ	32									497
501	メジロ	メジロ	103	○	24	22	8	4				501
502	キクイタダキ	キクイタダキ	8									502
507	ムクドリ	ムクドリ	113	○	33	35	21	28		○		507
509		コムクドリ	5									509
512		ホシムクドリ	2									512
525	ツグミ	マミチャジナイ	1									525
526		シロハラ	54				1					526
527		アカハラ	2									527
531		ツグミ	60				1			○		531
532		ハチジョウツグミ										532
533	ヒタキ	エゾビタキ	9		12							533
534		サメビタキ	2		2							534
537		コサメビタキ	18		6							537
539		オオルリ	4									539
543		ノゴマ	1									543

第8版	科名	鳥名	観察回数	2024				2025				第8版
				9	10	11	12	9	10	11	12	
550	ヒタキ(続)	キビタキ	16									550
554		オジロビタキ	1					雨				554
556		ルリビタキ	1					天				556
561		ジョウビタキ	60			9	5	中	○			561
564		イソヒヨドリ	39	○	1	3	1	2	止	○		564
568		ノビタキ	13									568
575	スズメ	スズメ	125	○	30	23	120	30		○		575
584	セキレイ	キセキレイ	42		3	2	1			○		584
585		ハクセキレイ	116	○	4	21	40			○		585
586		セグロセキレイ	109		2	8	3	3		○		586
595		タヒバリ	35			34	9			○		595
597	アトリ	アトリ	29									597
598		シメ	42							○		598
600		イカル	17									600
606		ベニマシコ	44									606
608		カワラヒワ	114		8	89	6	2		○		608
613		マヒワ	6									613
618	ホオジロ	ホオジロ	119	○	3	3	6	1		○		618
622		ホオアカ	6									622
625		カシラダカ	23									625
626		ミヤマホオジロ	1									626
633		アオジ	70				5			○		633
637		オオジュリン	17									637
9	キジ	コジュケイ	13									9
11	ハト	カワラバト(ドバト)	121	○	3	14	5			○		11
30	ムクドリ	ハッカチョウ	1									30
		カッコウSP	5									
		アイガモ	3									
		メボソムシクイSP	7		1							
		ヒタキSP	3									
種数合計(自動計算)				25	36	39	50	24		42		
個体数合計(自動計算)				447	608	444	170					
探鳥会参加者数				9	30	30	28	12		28		
13年間観察回数		1~2回		2012年1月~2024年12月の13年間 ①観察回数の少ない種(1~2回) ②観察回数多い種(100回以上) ③樹林伐採の影響を受けると思われる種								
		100回以上										
樹林伐採影響でなくなる種												



イソギ(11月資料の鳥)



ツグミ(冬鳥到来)



キジ(9月に続いて確認)

IV 次回は1月4日(日)

午前9時 ラポールひらかた前

お正月の探鳥会、初夢のタカが出てくれるといいのですが。
今月と同じように、大阪支部HPからホームズ様式からお申し込みくださるようお願いします。

今回写真で示した場所は、冬はツグミ・シロハラだけでなくアトリ・マヒワも、春・秋はオオルリ・キビタキ・コサメビタキ・ムシクイなどの渡り鳥が観察できた上、2023年にはオオタカも繁殖した里山レベルの探鳥地で「野鳥通り」と略称されるほど、山野の鳥が観察できる樹林でした。このように木々が大きくなり樹林となったのは、これまで予算が出なかったことで、30年間放置されていたことによるものでした。昨今の気象状況の変化で洪水が予想されること（実際に平が担当して15年間に、2回の冠水を経験している）、洪水した場合、河川敷の木が倒れて下流の橋桁を損傷することもあり、今回予算が出たことで、オオタカ繁殖個所を残し全伐されたものです。

